

あいさつ運動の好事例

矢掛町立小田小学校

(児童数 83名 教職員数 12名)

あいさつグランドマスターを目指して！

アピールポイント

- 学期に一度あいさつ運動の週を決め、子どもたちや教職員が校門に並んであいさつ運動を展開している。
- あいさつのすばらしい児童に「あいさつマスター」として認定し、バッジ(銀色)を与えている。さらに、すばらしいあいさつを継続した児童には、年度末に「あいさつグランドマスター」バッジ(金色)を与え意識づけを行っている。

実際の様子



取組の概要

■ 児童生徒の実態

どの児童も自分から進んで大きな声であいさつができています。中でも「あいさつマスター」のバッジを付けた児童の声は大きく、遠くにいてもあいさつの声が聞こえてくるくらいである。

横断歩道で車が止まり子どもたちの横断を待ってくれた場合は、子どもたちが横断歩道を渡った後、止まってくれた車のドライバーに向かって班員全員で気持ちのよいあいさつやお礼の言葉、お辞儀ができています。

■ 活動の内容

あいさつ運動の週は、通学班の1～2つの班の児童が順番に校門の両サイドに並んで他の登校児童を元気のよいあいさつで迎えている。また、校長をはじめ教職員は、あいさつ運動週間に関わらず校門で子どもたちを出迎えている。

「あいさつマスター」と「あいさつグランドマスター」のバッジ認定は、先生方みんなが普段からの子どもたちのあいさつの様子を審査し、「この子なら」と誰もが認める児童を全校朝礼等、全校児童の前で賞与している。

■ 取組の参加メンバー

全校児童、教職員が参加。

■ 成果・効果

「あいさつマスター」を賞与された児童は、あらためて自分の良さを自覚するとともに、「みんなの見本にならなければ」とさらに気持ちのよいあいさつに励むようになっている。

また、周りの児童も手本となる児童を見て、あいさつに対する意識が向上している。